



年末の大掃除について

年末の大掃除の予定は立ててありますか？ 年末の大掃除は、平安時代の宮中で行っていた「煤払い」が由来で、1年間蓄積した自宅のホコリや煤を落として神様を迎えるための行事でした。現在では新しい年を気持ちよく迎え入れる準備として行うことも多いですが、実は冬に行う掃除自体、異物混入対策としても理にかなった行動なのです。

冬は生き物の姿が見えなくても、その多くが寒さに耐えるためにどこかに潜んで、春を待っている状態です。例えば、食品工場等にとって重要な害虫であるタバコシバンムシは、寒い時期は活動（成長）できないため、幼虫の状態のまま食品残渣等の中で過ごし、温かくなると蛹化、羽化して、成虫が繁殖します。暖かくなって成虫が増えてきて慌てて殺虫等の対策…なんて

ケースは多くありますが、この時に掃除してもすでに成虫が分散し、新たに発生源ができていくということも。冬の間に動きの少ない幼虫を一掃することで、春以降の発生を抑えることができるのです（下図参照）。

こういった虫の発生は、日常の清掃箇所ではない、普段目につかない場所（例えばサイロ、ダクト、天井裏、高所等）を見逃してしまうことで起こってしまう場合がありますので、年末の大掃除の時に念入りに点検し、掃除もれを極力なくすように



写真1 粉残渣の吸引清掃

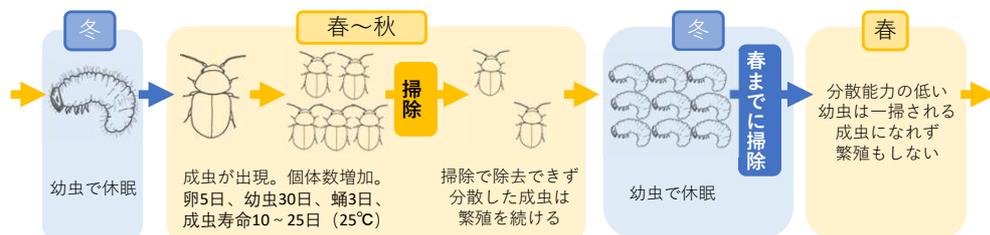


写真2 配管清掃

しましょう。

また、高所用の専門用具が無いと難しい等、自力で掃除できない部分は外部業者に依頼するという判断もあります。弊社では、専門性が必要な掃除や、日常清掃で使える掃除道具の提案もいたしますので、お気軽にお申し付けください。

生き物の活動が少ない冬の間の準備で、温かくなった際の虫の発生状況が変わります。まずはしっかり掃除して、来春に備えましょう。



図：タバコシバンムシの生態と掃除のタイミング

今月の豆知識

虫も独りは耐えられない？

大抵のヒトにとって「孤独」とは、メンタルヘルスの問題や健康リスクにも関わるマイナスな要因ですが、実はヒトだけではなく、社会性昆虫や動物の健康状態も悪化させることがあることが分かっています。最近の研究では、そのメカニズムまで解明されつつあります。

研究で用いられた虫は、社会性昆虫であるアリです。同じ巣の別個体と関わって生きているアリは、孤立させると寿命が短くなることは以前からわかっていました。研究では、孤立させたアリ（孤立アリ）と10匹のアリ（グループアリ）を餌などの飼育条件を同じにして行動を比較したところ、孤立アリはグループアリと行動が異なり、巣を模した屋根付きのスペースよりも、外の飼育ケースの壁際にいる時間が長いといった、社会的に強い

ストレスを受けた時に現れる不安様行動が見られたそうです。また、この行動が見られた孤立アリとグループアリで遺伝子を調べると、体内で有毒な活性酸素が蓄積される「酸化ストレス」に関する遺伝子の発現に違いが見られました。さらに、この酸化ストレスを緩和させる薬剤を孤立させたアリに投与すると生存期間は長くなるということまで分かったそうです。このアリの研究を通じて、人間の社会ストレスの緩和や健康寿命を延ばす研究にも繋げていくようなので、今後の孤独なアリの研究に期待です。普段から様々な精神的なストレスを抱える人間と同様に、アリも孤独を感じていると思うと、なんだか不思議に感じませんか。

